Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　瀬戸小　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標	中間評価（10月１日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（２月末） □指標に係る取組状況 ◎短期（中期）経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
1	【基礎学力】データ活用による学力の定着と向上	★	新規	単元構想・授業展開の工夫を図り、学びを広げ・深め、基礎学力を伸ばす。	【基礎学力の向上】 ①課題発見解決学習（「問い」の設定と授業「構成」）②指導と評価の一体化を図り、学習をあきらめる児童を出さない③学習指導案はチームで作成・検証する④ICTツールの積極活用と宿題のベストMix（共通×個別×自主）を図る 【家庭学習】 ①家庭学習状況を根拠に家庭と連携する	○標準学力調査で全国差を５点向上 ○児童アンケート85% ①自ら問いをもち、考えている。②最後まであきらめず、粘り強く学んでいる。 ○家庭学習時間を、年度当初比で20%	□「指導と評価の計画」を教員間で綿密に検討し、効果的な授業改善や教材分析の方法を共有した。9月からは学年ごとに重点単元を定め、計画的に研修を重ねた。学習への前向きな姿勢が育っている。【指標2】児童アンケート①84% ②86% 【指標3】家庭学習の時間　37.9分　（年度当初より15%増）	3	3	○児童が問いを立て、解決する授業を目指す。そのため指導と評価の計画を中心に教材研究を充実させることで授業力向上を図る。 ○学年会や授業研究を継続し対話を広げる発問・問い返しの技術向上に重点を置く。 ○「家庭学習＋５分」を目標に諦めない児童を減らしていく。					
1	【多様な学び】個々の特性に応じた教育内容の充実		新規	個々の特性に応じた多様な学びを実現する。運動が好きな児童を増やす。	【多様な学び】 ①個の情報の保幼小接続、学年接続の充実　②外国人児童への効果的な取組み 【健康】 ①規則正しい生活習慣の定着の呼びかけを行い、生活習慣の向上を図る。②授業や家庭で取り組める運動を全校に紹介する。	○個々の特性に応じた教育についての研修を年3回実施 ○児童アンケート90% 「生活習慣が改善した」「楽しく運動に取り組んでいる」「朝食喫食率」 ○「上体起こし」６月から１２月の自己ベスト更新を８割以上	□全教員で保育所訪問をし、接続を深めた。 □行事ごとに個の特性に関する情報共有を行い、支援の在り方について検討した。【指標1】4回実施 □全学年で上体起こしを計測。睡眠・朝食の啓発や体育レク委員会によるプランク大会の開催や、お便りなどの啓発活動に取り組んだ。【指標2】「楽しく運動」94%「生活習慣が改善」83%「朝食喫食率」89%	3	3	○個の交流を継続する。 ○児童の委員会を中心にドッジボール大会や朝食習慣、早寝啓発の取り組みを行う。また保健だよりや食育だよりで啓発し意識改善を図る。 ○体育の始業時にプランク運動を実施し、成果を試す「プランク大会」を児童が開催する。 ○生活習慣の改善には、児童の目標意識を高める取り組みを行う。					
1	【不登校対策】未然防止と社会的自立に向けた支援		新規	安心感・自己効力感、思いやりの心を引き出し、行動化できる子どもたちを育てる。	【自己肯定感】 ①委員会活動等の主体的な活動と相互評価による成功体験の蓄積 ②目標設定と振り返りによる自己理解・自己調整力の育成（あゆみとの連動） ③家庭と連携した家庭での約束（就寝・スマホ）の確立 【不登校対策】 ①不登校の未然防止と初期対応をチームで即時、継続して実行	○委員会活動の計画・実行・相互評価・振り返りの実施 ○児童が考えた目標（基準）に対する生活の記録評価の補助簿化実施 ○生活習慣（就寝・スマホ等）の改善児童の増加 ○新規不登校の減少	□委員会活動等で、計画・実行・振り返り・相互評価を実施している。 □児童が設定した目標をもとに、生活や学習の振り返り・評価を実施している。 【指標3】就寝時間、スマホの使用時間を決めている児童が増えた。（就寝95%、スマホ72%） 【指標4】１学期末での新規不登校児童数1名。昨年度3学期末は9名。	3	3	○ 主体的な活動と相互評価の機会を充実させ、成功体験の蓄積を図る。 ○ 目標設定と振り返りを継続し、自己調整力の育成を図る。 ○ 家庭と連携し、就寝・スマホ等の生活習慣の定着を図る。 ○ 欠席傾向を早期に把握し、組織的・継続的な支援を行う。					
1	【環境整備】教職員が生き生きと働ける組織づくり		新規	学びづくりに向かう時間を生み出し、子どもの姿で保護者・地域とつながることで、教職員のやりがいを高め、学校信頼を得る。	【保護者信頼】 保護者・地域とつながるため、子ども達の学びの姿をHP等で発信 【業務改善】 ①生成AIの戦略的活用 ②優先順位や効率を意識した、月間、週間ごとに業務の見通し ③「3学期制・2期評価」導入、④時程の変更	○保護者アンケート95% ①「授業等を通して我が子は成長している」 ○職員アンケート90% ①「学びづくり」に向かう時間を生み出している」②「仕事にやりがいを感じている」 ○1ヵ月時間外在校等時間の平均時間を30時間以下	□学校、学年通信を定期的に発行しHP等で発信をした。【指標1】保護者 96% □生成AIの活用、2期評価制の導入などで業務改善につなげた。 □時程の変更により「学びづくり」に向かう時間を生み出すことができた。【指標2】職員 ①77% ②92% 【指標3】30時間超過は毎月数名。平均時間は30時間以下。	3	3	○学校での様子や行事等の様子をHPでも定期的に発信する。 ○スケジュール管理を行い、主任・主事を中心に優先順位をつけて業務を計画することで時間と業務改善にもつなげていく。 ○報連相のサイクルを活用し、トラブルの未然防止や保護者連携における組織的対応に取り組む。					

[プロセス評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

[達成評価の評価基準]

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。